

～患者団体向けインフォメーション・セッションを大阪で開催～

<英国の医療制度や国営による保健制度やその試みから学ぶ>

医療政策への患者一般参画の必要性や、日本への導入の可能性などについて、活発な議論を展開

・・・初の試みとして、Web 会議システムを活用し、東京会場とも繋ぐ・・・

日時：2012年9月22日（土曜日）

場所：ホテルグランヴィア大阪

PhRMAは、日本の患者の方々への支援活動の一環として、去る2012年9月22日（土）、「英国医療における患者一般参画の実情」をテーマに、大阪市北区のホテルグランヴィア大阪において、患者団体の代表者の方々等を対象に、本年2回目となるインフォメーション・セッションを開催しました。

前回（本年3月開催）のスウェーデンの医療政策に続き、今回は、英国における医療政策のあり方にフォーカスしました。講師には、英国立母子保健共同研究所にてNICE（National Institute for Health and Clinical Excellence）診療ガイドライン作成に携わるなど、英国での実体験が豊富な独立行政法人国立成育医療研究センターの森臨太郎氏をお招きし、その理念や策定プロセス、医療改革の現状、そして日本においても検討されるべき、患者一般参画や医療経済評価のあり方についてご講演いただきました。

森氏の講演に続き、臨床試験の普及啓発やがん研究支援など、膵がん撲滅のに向けた活動に取り組んでいる、NPO法人パンキャンジャパンの眞島喜幸氏が患者団体代表としてファシリテーターとなり、英国だけでなく米国との比較を含めた、日本の医療費や保険制度問題、ならびに医療政策、患者一般参画の課題などを話題に取り上げ、参加者を交えての活発な意見交換が行われました。

また、このセッションでは、個々の事情で直接会場に足を運ぶことができない患者団体の方も、ディスカッションに参加出来るような形態を目指す上での、初の試みとして、大阪のメイン会場と東京のPhRMAオフィスとをインターネットならびに電話回線で繋ぎ、開催しました。東京会場の参加者からの、講師への質問とその回答を大阪・東京の参加者がリアルタイムで共有するなど、非常に有意義な意見交換会となりました。

大阪会場では、ディスカッションの後に、普段はあまり顔を合わせることがない、疾病領域が異なる患者団体同士の交流の場として“ネットワーキング”の時間を設け、自由にコミュニケーション・情報交換を行っていただきました。

今回は大阪会場と東京会場を合わせて、22団体25名の患者団体の方々に参加し、「英国・米国などの海外の進んだ医療制度を学ぶことが出来て良かった」「他の国の医療制度や改革を学ぶことは大切だと感じた」「専門医・医療のかかり方、医療のしくみなどから日・英・米の比較も理解出来た」などの声が聴かれた他、「他国を参考に、日本に適した形で取り入れられれば改善に繋がる」、「患者会・患者参画として自ら声を上げることの重要性を感じた」など、より積極的に医療制度のあり方に関与しようとするコメントがありました。

<セッション風景>

講演風景



講演：森臨太郎氏



ディスカッション：森臨太郎氏・眞島喜幸氏



Q&A/ディスカッション風景
＜大阪会場＞



＜東京会場＞

